

【提言】札幌広域圏の総合交通体系のグランドデザイン ～北海道新幹線 開業時期の前倒しへ～（骨子）

平成24年9月 札幌商工会議所 地域開発委員会

北海道新幹線は、我が国の国土軸として、高速鉄道交通体系上、極めて重要な一大プロジェクトであり、本道と本州が線でつながることにより、首都圏はもとより東北・北関東圏との文化・経済交流や、本道における新産業の創出等が促進され、本道の経済活性化に大きく寄与するものと期待されている。

しかしながら、これらの効果を最大限発揮するためには、将来の札幌開業を見据え、交通体系などについて、今から戦略的なビジョンを描くことが不可欠である。札幌商工会議所 地域開発委員会では、「都心から高速道路へのアクセス強化」や「丘珠空港の機能拡充」などを図ることにより、新幹線開業効果を道内全体に波及させていくことで、新幹線利用者を拡大させ、交流人口を拡大する戦略を講じることで、二十数年先とされている新幹線の開業時期を前倒しすることができるものとする。

グランドデザインの基本的考え方

北海道新幹線 新函館(仮称)－札幌間
2035年 完成見込み
新幹線札幌駅の乗降客数 約2万人/日

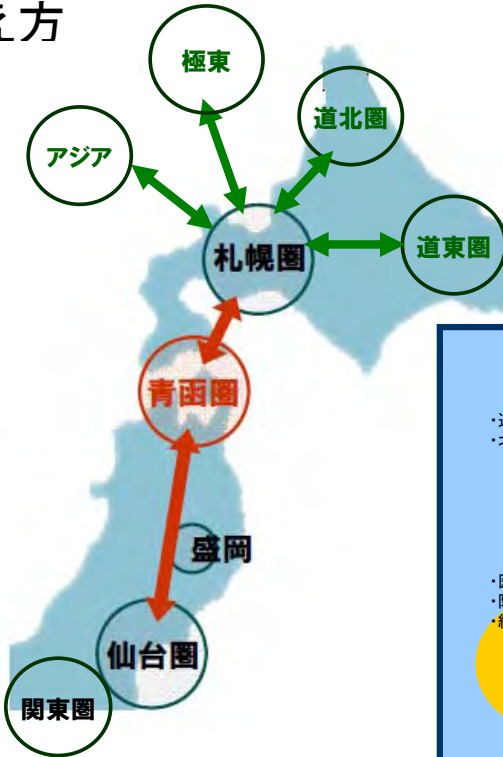
●道東・道北・アジア・極東との連携で
乗降客数2万人を3万人へ

そのためには、

- ◎都心ダイレクトアクセス＝高速道路との接続
 - ・都心から高速道路へのアクセス強化
 - ・ミッシングリンクの解消
- ◎丘珠空港の機能拡充
 - ・滑走路延伸～ジェット機就航
 - ・路線拡充～道内便、LCC、国際線
 - ・東豊線延伸～アクセス改善
 - ・後背地活用(医療拠点、防災拠点、統合型リゾート等)
- ◎札幌駅前再整備

新幹線の札幌延伸に向けて、航空路線や高速道路など道内の交通体系を整備することにより、本州⇒道央⇒道内各地とのネットワークが強化され、開業効果を最大化。

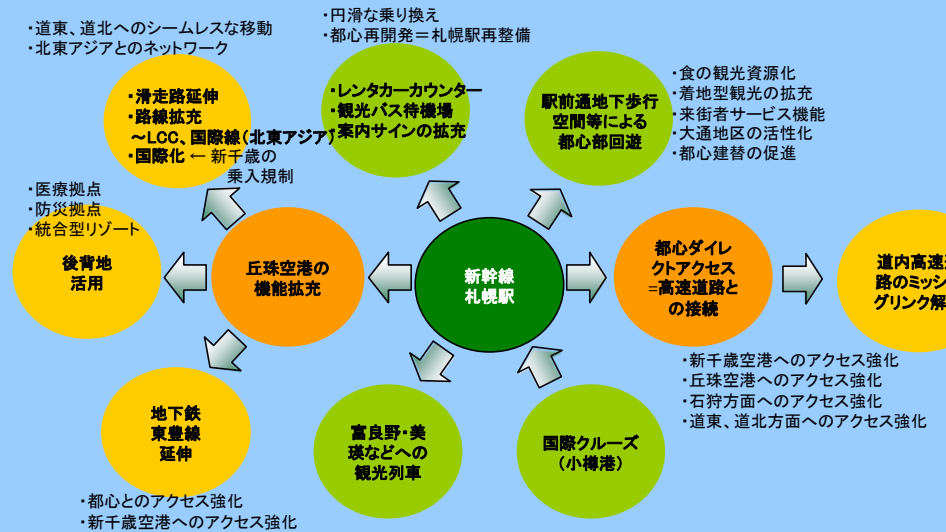
新幹線の必要性が増し、開業時期を前倒し、早期開業を実現！！



北海道新幹線開業を契機に
札幌圏が各圏域の結節機能
を果たすため、
他の交通モードとの連携が不可欠



「札幌駅」をハブに、札幌延伸のシャワー効果を全道各地へ



札幌商工会議所 地域開発委員会 事務局:総合企画部
札幌市中央区北1条西2丁目北海道経済センター
TEL:011-231-1330 FAX:011-222-5215
<http://www.sapporo-cci.or.jp>

今回の主な提言内容

札幌駅を基点として、さまざまな交通モードとの連携を円滑化させることで、道内全域への波及効果を最大化し、交流人口の拡大を図る。

1. 都心ダイレクトアクセス = 高速道路との接続

札幌都心部からインターの距離は、政令市の中でも格段に遠い。都心へのダイレクトアクセスを整備することにより都心部の渋滞緩和と、観光、医療、物流等、ヒト・モノの流れの円滑化を図る！



- 新千歳空港へのアクセス強化
- 丘珠空港へのアクセス強化
- 石狩方面へのアクセス強化
- 道東、道北方面へのアクセス強化

また、高速道路のネットワーク化を図るため、道内高速道路のミッシングリンク解消も必要



2. 丘珠空港の機能拡充

札幌都心部に近いポテンシャル(札幌駅から約20分)を最大限活かすため、丘珠空港のジェット化を図り、路線を拡充！

後背地の有効利用
高度医療施設の立地
・ドクタージェットとの連携
・地方からの受療者の受け入れ
・海外からの医療観光に対応
統合型リゾート
国際会議場の立地
など可能性を秘めている。

ジェット化に向けて、最低でも滑走路300mの延伸が必要。

地下鉄東豊線延伸
丘珠空港へのアクセス向上のため、地下鉄東豊線を丘珠空港まで延伸することで、全国的にも好アクセスな空港に。

丘珠空港を真の防災拠点に
緊急物資輸送の主力輸送機であるC-130H輸送機は必要滑走路延長は約1,600m。

ジェット化により交流圏が広がり、ビジネスチャンスを生み出す！
新千歳空港は旧共産圏の航空会社の乗り入れについて防衛機密上規制がある(乗り入れ日時が限定)。丘珠空港のジェット化、国際化により中国、ロシアから航空機乗り入れが可能となり、新千歳空港を補完することができる。



LCCの参入による新たな需要の拡大
LCC参入により、多頻度運航、低運賃での利用が可能となるため、航空機を利用していなかった需要層が新たに創出される。



3. 札幌駅前再整備

北海道新幹線利用者の円滑な乗り換え促進のため、レンタカーカウンター、観光バス待機場、案内サインの拡充を図るとともに、駅前通地下歩行空間等により都心部回遊の向上を図る！